



## 第4章

# 地域別構想

(地域別の都市計画に関する基本的な方針)





## 4-1. 地域別の基本的な取組方針

### (1) 地域別構想の考え方

地域別構想と全体構想が相互に連携を図りながら機能する計画へ

全体構想では、広域的または全市的な視点から、都市の魅力を伸ばすための方針や都市づくりを支える方針を示しました。

地域別構想は、全体構想と相互に連携を図るとともに、地域の視点、とりわけ地域に暮らす生活者の視点から見た地域の課題を踏まえた上で、その地域の特性や魅力を生かしたまちづくりを今後どう進めていくのか、という観点から地域単位の将来像や基本的な方針を示します。

地域別構想は、「地形等の自然条件、土地利用の状況、幹線道路等の交通軸、日常生活上の交流の範囲等を考慮し、施策を位置づける上で適切なまとまりのある範囲とすることが望ましい」とされているため、本計画では、都市計画区域内の各自治振興区が策定した、地域の課題解決やまちづくりを推進するために必要な事項を定める「地域自治振興計画」を参考とし、各地域の目指す方向性を踏まえた方針を策定しました。

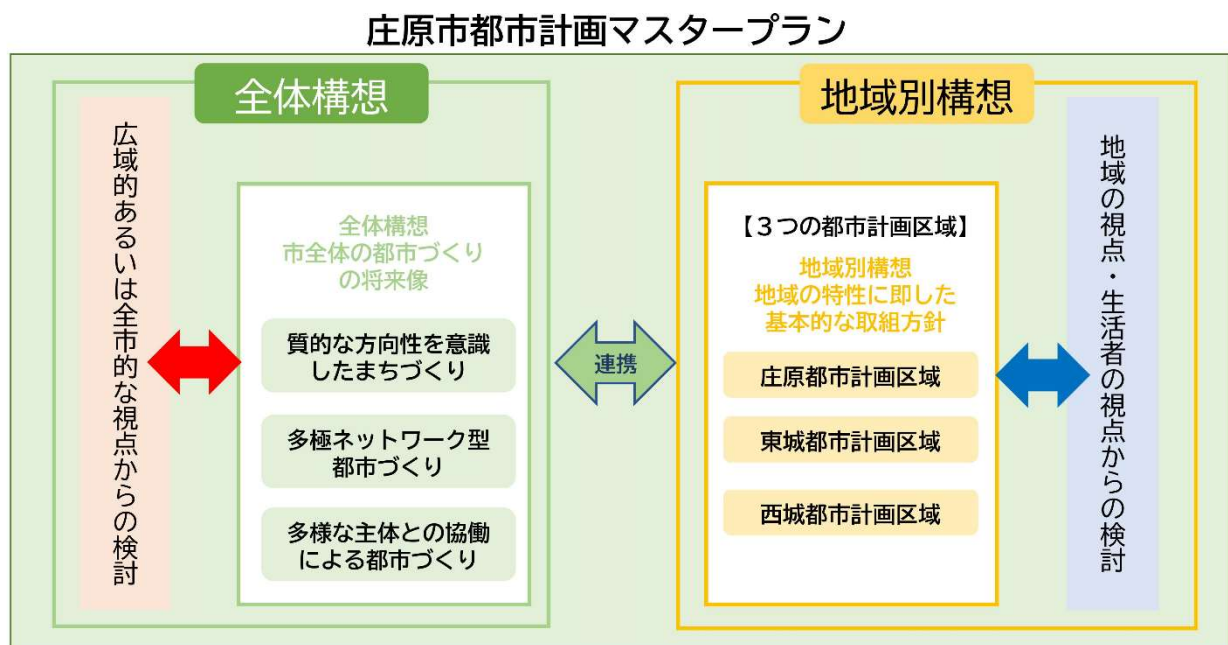


図 地域別構想の考え方

## (2) 地区別構想の地域設定

地区別構想における地域は、施策を位置づける上で適切なまとまりがあり、将来にわたり本市の都市づくりの拠点として基本的な単位となる、庄原都市計画区域を都市拠点、東城都市計画区域を準都市拠点、西城都市計画区域を生活拠点とし、地域づくりの方向性と施策の方針を定めます。



図 地域別構想の地域設定

## 4-2. 地域別方針 庄原都市計画区域（都市拠点）

### （1）地域の概況

庄原都市計画区域は、中国縦貫自動車道庄原インターチェンジや備後庄原駅など広域的な道路網や、鉄道・バスなど交通起点となっているほか、庄原赤十字病院や庄原市役所、庄原市民会館、桜花の郷ラ・フォーレ庄原をはじめとした公共施設、文化交流施設、都市施設等が立地する、都市機能のポテンシャルの高い地域であり、本市の中核的な都市拠点として位置づけます。

また、農業が盛んな市街地周辺部においては、国営備北丘陵公園や県立広島大学などが立地し、都市と美しい田園風景が調和しています。

今後は、多様な世代が住みやすい環境の整備や既存資源の有効活用、多様な交流・にぎわいの創出が求められます。

### （2）地域の現状

令和2年国勢調査での庄原都市計画区域内の人口は、12,180人で、市域全体の人口（33,633人）の36.2%を占めています。

土地利用状況は、用途地域内において住宅用地が21%、商工業用地15.2%と多くを占めており、市街地周辺では山林や農地が一定の割合を占めています。

### （3）地域の基本的な方針

地域づくりの方向性	基幹的な都市機能が集積し、市の中心的な拠点にふさわしい利便性の高い「都市拠点」づくり
施策の方針	●全ての市民が利用しやすい都市機能の充実・強化 ●にぎわいを創出し、居住しやすい中心市街地の形成



<庄原都市計画区域>

## (4) 施策の方針

### 土地利用・市街地整備の方針

#### 基幹的な都市機能が充実したコンパクトでにぎわいのあるまちづくり

- 地域住民等のニーズに合わせた都市機能の維持・向上を検討します。
- 子育て支援センターや放課後児童クラブなど、子育て世代の利便性の向上や、子育て環境を支える機能の充実に努めます。
- 都市機能の充実・集積に加え、県内外からの観光客や地域住民が利用できる魅力と活力を支える商業・業務・公共施設等の集積を推進します。
- 国道 183 号と国道 432 号が交差する市街地は、低未利用地や住工混在などの問題が生じないよう、産業環境の強化と魅力ある市街地の創出を目指します。
- 庄原市民会館や庄原赤十字病院、庄原小学校が立地する市街地は、文化芸術や医療などが充実した中心拠点として活用を推進します。
- 子どもから高齢者までの世代間交流を進め、地域の伝統行事や地域内の歴史的財産の歴史を学べる魅力ある環境の整備づくりに努めます。
- 国営備北丘陵公園を活用し、国と連携した地域の情報発信や、観光客の交流による関係人口の拡大を図ります。
- 産学官の連携により、県立広島大学や県立農業技術大学校の学生が広く調査・研究等ができる教育環境をさらに強化し、市民と一緒にその成果がまちづくりや地域産業の活性化に享受できる環境づくりを推進します。



<庄原市民会館>



<庄原赤十字病院>

#### アンケート調査での市民の声

- .....

#### ■「産業が盛んで雇用があるまち」が求められています

市が実施したアンケート調査によると、庄原市についてどんな特徴のあるまちになっほしいかについて「産業が盛んで雇用があるまち」が多く回答されています。



## 多様な世代が快適性・利便性を享受できる総合的な土地利用の見直し・調整

- 地域の実情に応じて、居住・都市機能の適切な誘導と維持更新を進めるため、関係部局や市民・団体・企業等と連携します。
- 用途地域を見直すことにより、適切で計画的な土地利用の増進と、穏やかな自然景観や高い防災力を持った優良で魅力ある住環境の維持を図ります。
- 「庄原市空き家等対策計画」等に基づき、空き家・低未利用地の利用を促進します。
- 新たな定住者の受け入れにあたっては、市が運営する「しょうばら空き家バンク制度」の活用や、各地域の取組等を推進します。
- 転入定住者を対象として住宅の取得や改修を支援することにより、定住促進による地域の担い手確保及び地域の活性化を推進します。
- 県立広島大学、畜産技術センター、国営備北丘陵公園は、多世代や多様な分野の交流をテーマに土地利用を検討します。
- 「庄原市農業振興計画」に基づき、地域の農家や農業生産法人等と連携し、市街地周辺部の農地や山林等の里山環境の保全と利用を図り、農業技術や経営に対する実践的な教育環境の場の強化を推進します。



<県立農業技術大学校> 広島県資料



<県立広島大学>

### 庄原自治振興区での取組状況

#### ■ 災害から地域を守る自主防災活動の取組

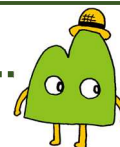
庄原自治振興区では、自主防災本部を設置し、防災計画に基づき「緊急時の対応マニュアル」や、地域ごとの「防災マップ」の作成、避難訓練の実施等を行い、災害から区民や地域を守る取組を進めています。



### 敷信自治振興区での取組状況

#### ■ 観光客だけでなく地域住民も自然を楽しむ事業の展開

敷信自治振興区は広島県圏域課題解決支援事業に基づき、平成26年度に「いきいきわくわく輝く“信敷の里”」を策定しています。本計画では、地区の持続的発展を目指すために、令和6年までを目標に、①元気な高齢者づくり事業、②地域ブランドづくり事業、③人の“わ”づくり事業、④地域の環境美化事業に取り組んでいます。



## 交通体系の方針

### 生活を支える公共交通サービスの維持・向上

- 市外から庄原市への移動手段を確保するため、道路管理者と連携し、市内と他市町とをつなぐ道路ネットワークの維持と効率化を推進します。
- 市内外の交流を支える、芸備線の維持・存続のため、交通事業者、沿線市町、地域住民等と連携し利用促進を図ります。
- 市街地中心部と郊外部を結ぶ等、A I 新技術を活用したデマンドバスなどの交通手段の活用を検討します。
- 地域公共交通を支えるバスの広域路線、市内広域路線、地域内生活路線の連携や、路線の見直し等により、乗り継ぎや待合所の利便性の向上を図ります。
- 高齢者や障害者等が通院や買物等の日常生活に困らないように、現在導入している市民タクシー等の利用状況や住民ニーズを踏まえ、「庄原市地域公共交通計画」と連携した交通ネットワークの維持・向上を検討します。

### 観光地と宿泊拠点を結ぶ観光連携軸の形成

- 市を代表する観光地である国営備北丘陵公園と、宿泊拠点桜花の郷ラ・フォーレ庄原を結ぶ国道432号、国道183号は、沿道に商業・観光機能の立地・誘導を図るなど、観光連携軸としてふさわしい道路網の整備と、魅力ある市街地の形成を推進します。

### 集約型都市構造を支える道路ネットワークの形成

- 都市計画道路については、将来需要の検討と配置や規模などを検証し、必要に応じて計画変更を行い、効率的な施設整備を行います。
- 地域交流連携補完軸である、都市計画道路高小路線、上野公園線は、周辺の地域拠点と交流や連携を促す良好な道路ネットワークとして利便性向上に努めます。



<地域の道路ネットワーク>



<備後庄原駅の駅前広場>



## 居心地が良く歩きたくなる市街地環境の整備

- まちのにぎわいづくりのために、安全な歩行空間の確保や自動車流入の規制、自動運転の導入など、歩いて楽しめる市街地環境の整備をソフト・ハードの両面から関係機関と検討します。
- 地域を支える生活道路は、安全性、防災性、景観・環境等に配慮し、アダプト制度の活用など地域住民との協働により、維持管理活動の充実に努めます。
- 自動車による観光客が地域内を歩いて移動できるよう、適切な駐車場の配置を検討します。

### アンケート調査での市民の声

#### ■ 目指すべきまちの姿のうち、「公共交通の便利なまち」が求められています

市が実施したアンケート調査によると、庄原都市計画区域の目指すべきまちの姿のうち、「公共交通の便利なまち」が多く回答されています。



## 景観・みどりと水の方針

### 観光客等をもてなす美しい里山の景観形成と景観保全

- 市民と協力して里山・公園・緑地等の適切な形成と保全を図ります。
- 上野池の特徴を生かした、美しい景観の形成を図ります。
- 環境省から「生物多様性保全上重要な里地里山」に認定されている国営備北丘陵公園は、国と連携しさらなる魅力的な交流と憩いの場として活用されるよう促します。
- 市民や観光客が、居心地よく歩きたくなる歩道等の整備に取り組みます。
- 七塚町の観光名所であるポプラ並木の景観を維持し、美しい風景を守ります。

### 魅力ある多世代観光交流エリアの形成

- 市を代表する上野総合公園や、宿泊拠点である桜花の郷ラ・フォーレ庄原、総合交流施設である食彩館しょうばらゆめさくらを中心に、自然を生かした一体的・連続的な活用構想の検討を進めます。また、子どもたちを中心に幅広い世代が交流できる、魅力ある多世代観光交流エリアの形成を目指します。

## 親しみのある地域景観の保全と形成

- 西城川や上野池などをはじめとした水辺空間は、身近に水と触れ合う空間として、親しみのある景観の保全に努めます。
- アダプト制度の活用により、市民と協働した周辺環境との調和を図ります。
- 市民に親しみのある小路（こみち）のある歴史的なまちなみは、住民参画により保全と利活用を推進します。
- 各種団体や地域住民と連携して、花の植栽や竹の活用など、地域の親しみのある景観保全に取り組みます。



<七塚原高原ポプラ並木>



<竹の活用>



<上野池>

## 河川・下水道の方針

### 河川整備による、防災・景観に配慮した取組の推進

- 西城川や戸郷川、国兼川などの河川について、再度災害防止対策に取り組むとともに、優先度の高い箇所から、河道拡幅や河道掘削などの河川改修を計画的に進めます。また、動植物の生息・育成環境の保全に配慮し、親水性の高い水辺空間の整備に努めます。

### 長期的かつ計画的な下水道の維持管理の推進

- 下水道施設の電子台帳化を進め、計画的な維持管理を推進します。
- 「庄原市公共下水道ストックマネジメント計画」に基づき、長期的な維持管理を推進するために、地域の実情に配慮した長寿命化に基づく改修工事を実施します。

## 防災まちづくりの方針

### 中心市街地として、災害に強いインフラ整備の推進

- 「庄原市橋梁長寿命化修繕計画」や「庄原市道路整備基本計画」等を踏まえ、防災上重要な幹線道路を中心に、道路改良や橋梁の維持管理や長寿命化対策を行い、道路網の安全性・信頼性を確保します。
- 老朽化した交通安全施設の更新等、「庄原市交通安全計画」及び「道路整備計画」に基づく災害に備えた道路環境の整備を推進します。
- 災害リスクのあるエリアでの開発行為の抑制を図り、計画的かつ着実に必要な防災・減災対策を推進します。

### 計画的な河川改修の促進

- 近年の気候変動による豪雨の頻発化・激甚化に対応するために、西城川や戸郷川などの洪水または内水による浸水リスクが高い地域においては、洪水・内水被害を防ぐため、河川改修を計画的に進め、安全で快適な都市環境を確保します。

### 既存建築物等の総合的な安全対策

- 避難路沿道建築物に該当するブロック塀については、「庄原市ブロック塀等安全確保事業補助制度」の普及啓発を実施し、除却や建替えを支援します。
- 「庄原市公共施設等総合管理計画」に基づき、防災拠点となる市庁舎について、定期的な点検や維持修繕、耐震化等を推進します。
- 管理が不十分な老朽空き家について、災害時の倒壊等による危害を防ぐため、地域や県と連携して、所有者に対する除却や適正管理の啓発など、「庄原市空き家等対策計画」に基づき、空き家対策を引き続き推進します。

### 土砂災害防止対策に向けた取組の推進

- 北部を中心に土砂災害の恐れがあるため、土砂災害警戒区域等における崩壊防止工事等を推進し、災害リスクの低減を図ります。
- 土砂流失や洪水などの自然災害を防止する保水機能を有する、森林や緑地・農地などの適切な保全に努めます。
- 関係機関と連携しながら、避難所や要配慮者利用施設について必要な法面对策や砂防施設整備などの対策を推進します。

## 自主防災体制の強化

- 「庄原市強靱化地域計画」や「庄原市地域防災計画」に基づき、総合的な防災体制および危機管理体制の強化を図ることで、災害に強く、安全・安心に暮らせる都市づくりを推進します。
- 自主防災本部・自主防災会における具体的な活動と連携し、災害全般に対応した自主防災体制の強化を図ります。
- 自主防災力の向上のため、「避難所運営マニュアル」に基づく、運営体制の強化を図ります。
- 地域防災力の強化のため、防災研修会・防災訓練を適宜実施します。
- 避難行動要支援者の避難支援体制の確立を支援します。

### アンケート調査での市民の声

#### ■「水災害や土砂災害の対策施設等の整備」が重要！

市が実施したアンケート調査によると、市民が考える災害に強いまちづくりに向けて重要だと思う取組は、「水災害や土砂災害の対策施設等の整備」の回答数が最も多くなっています。



### 東自治振興区での取組状況

#### ■環境にやさしく美しいまちを目指した取組

東自治振興区は平成30年に「第3次東自治振興区地域振興計画」を策定し、5つの基本方針を示しました。「環境にやさしく美しいまち」では、環境にやさしいまちづくりを目指した環境美化活動の推進や、国兼川のホタルの里づくりの推進等の取組を実施しています。

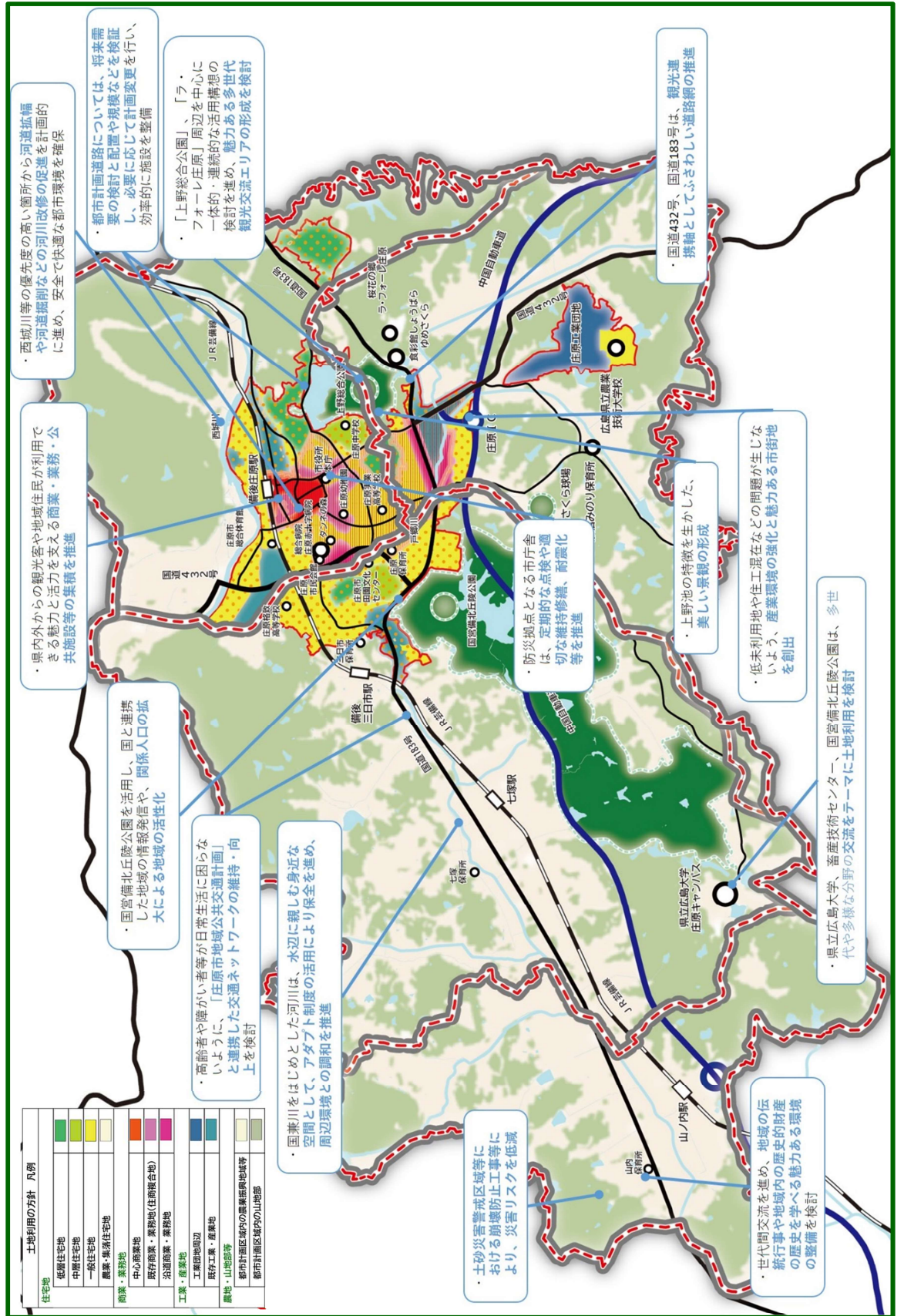


### 山内自治振興区での取組状況

#### ■環境にやさしく美しいまちを目指した取組

山内自治振興区は令和元年に「山内自治振興区地域振興計画」を策定しています。本計画では、具体的施策のうち、地域産業の活性化、おたがいさまネットの確立、地域の子どもの育成、地域環境の整備、伝統文化の継承と創造、定住促進の取組を実施しています。

# 庄原地域のまちづくり方針図



## 4-3. 地域別方針 東城都市計画区域（準都市拠点）

### （1） 地域の概況

東城地域は、医療・福祉・商業・公共施設など、生活に必要な都市機能が集積するとともに、市東部の自然・歴史資源を活用した観光交流の玄関口となっています。

また、平成 21 年度には、国土交通省中国地方整備局が支援する、夢街道ルネサンスに街道東城路が認定され、平成 22 年度には地域情報の提供や物産品販売を行う、東城まちなか交流施設えびすが開店しました。また、まちなみのシンボルである、国登録有形文化財である三楽荘の改修や周辺道路の美化が行われる等、にぎわい再生に向けた取組が進められています。

一方で、商業施設の郊外化や、少子高齢化等に伴う後継者不足・店舗の老朽化等により、空き家・空き地が増加しており、まちなみは衰退してきています。今後は、既存資源を有効活用し、多様な交流・にぎわいを創出できる質の高い都市整備が求められます。

### （2） 地域の現状

令和 2 年国勢調査での東城都市計画区域内の人口は、3,766 人で、市域全体の人口（33,633 人）の 11.2%を占めています。

土地利用状況は、用途区域内に、商業・工業用地が 16.7%を占めています。また、歴史的なまちなみを有しています。

### （3） 地域の基本的な方針

地域づくりの方向性	生活に必要な機能が集約し、歴史的まちなみを活かした快適な「準都市拠点づくり」
施策の方針	●利便性が高く、防災力の高い市街地の形成 ●地域資源を活かし、魅力ある観光拠点の形成



<東城都市計画区域>

## (4) 施策の方針

### 土地利用・市街地整備の方針

#### 多様な交流を育む歴史的まちなみの維持

- 街道東城路として夢街道ルネサンス認定地区に指定された東城のまちなみは、三楽荘やヤマモトロックマシンをはじめとした歴史的な建屋が並ぶ、趣のある景観形成に向け道路の美装化等に取り組んでいます。これら景観を保全するために、保存団体等と連携し、保存と活用策を検討します。
- 「庄原市立地適正化計画」に基づく事業に対し、集中的に支援を行う「都市構造再編集集中支援事業」を活用し、計画的に歴史的なまちなみの再生を推進します。
- 東城まちなか交流施設えびすを拠点とした、市民主体の観光まちづくりを引き続き支援します。



<三楽荘>

#### 多様なニーズに対応した魅力ある住商複合地の形成

- 街道東城路周辺を中心とした、空き店舗や低未利用地等の有効活用を図り、魅力ある商業環境づくりを推進します。
- 若い世代を中心とした移住者を増やす施策として、多様な働き方が可能となる職場環境の形成に向け取り組みます。
- 多様なニーズに対応した、職住近接型の良好な住環境の形成を推進します。
- 子育て支援センターや放課後児童クラブなど、子育て世代の利便性の向上や、子育て環境を支える機能の充実に努めます。



<空き店舗等の活用>

#### 自然環境との共生に配慮した土地利用の推進

- 市街地周辺部の山林等は保全を原則とし、歴史性の高い市街地は、自然とのふれあいを通じた地域交流の場の形成を推進します。
- 都市計画区域内の荒廃している農地については、市民農園等の有効活用を図り、農用地の流動化を推進します。

#### アンケート調査での市民の声



#### ■東城地域は、「自然・公園を活かすまち」、「文化・景観を守るまち」が求められています

市が実施したアンケート調査によると、東城地域の目指すべきまちの姿のうち、「自然・公園を活かすまち」、「文化・景観を守るまち」が多く回答されています。

## 交通体系の方針

### 歴史観光の玄関口としての地域ネットワーク強化

- 東城インターチェンジ周辺は歴史観光玄関口として、市民や観光客のニーズに対応した、道の駅 遊YOUさろん東城の観光交流施設機能の充実を図ります。
- 東城インターチェンジと接続する国道 182 号や、街道東城路に接続する国道 314 号は、地域交流連携軸として周辺地域との交流や連携を促す良好な道路ネットワーク形成の推進に努めます。



<東城 I C>

### 地域住民や観光客が歩きたくなるウォークアブル空間の形成

- まちの賑わいづくりのため、居心地が良く歩きたくなる歩行空間の確保や自動車流入の規制など、歩いて楽しめる市街地環境の整備を、ソフト・ハード両面から関係機関と協議・検討します。
- 自動車利用の観光客が地域内を歩いて移動できるよう、適切な駐車場の配置を検討します。



<歩行空間の整備>

### 地域の交流を支える骨格的な道路と生活道路の整備推進

- 市街地の骨格を形成し、秩序ある土地利用を誘導する都市基盤施設である都市計画道路は、将来需要の検討と配置や規模などを検証し必要に応じて計画変更を行い、効率的な施設整備を行います。
- 良好な居住環境の形成ならびに市街地内の低未利用地の利用促進に向けて、「庄原市生活道路整備補助金事業」を活用した生活道路の整備や維持管理を推進します。
- 主要地方道庄原東城線は、庄原地域と東城地域を連絡する、地域交流連携補完軸であるため、地域の交流を支える道路として、良好な道路ネットワーク形成に努めます。



<生活道路の整備>

## 東城自治振興区での取組状況

### ■環境にやさしく美しいまちを目指した取組

東城自治振興区は平成 26 年「東城自治振興区地域振興計画」を策定しています。本計画策定にあたり、東城地域全世帯の高校生以上を対象にアンケート調査を実施しており、これから地域が発展するためには何が必要かについて、「就業の場の確保」、「若者の定住促進」が多く回答されています。





## 景観・みどりと水の方針

### 歴史的まちなみの再生を見据えた、景観に配慮したまちづくり

- 街道東城路を中心とした歴史的なまちなみの再生を支える取組として、県と連携し地域の実情に応じた良好な景観形成を推進します。
- 五品嶽城跡をはじめとする周辺の山々を連絡する散策路は、自然と触れ合う憩いの場として、動植物の生息・育成環境の保全に配慮し、親しみのある歩行空間づくりに努めます。



<成羽川>

### 都市公園を活用した地域活性化

- 「庄原市都市公園施設長寿命化計画」に基づき、東城中央運動公園の適切な維持管理・更新を行い、サッカーや野球などスポーツを通じた活力ある絆の強い社会の実現のため、スポーツツーリズムの推進を図ります。



<東城中央運動公園>

## 河川・下水道の方針

### 河川整備による、防災・景観に配慮した取組の推進

- 成羽川などの河川について、再度災害防止対策に取り組むとともに、優先度の高い箇所から、河道拡幅や河道掘削などの河川改修を計画的に進めます。また、動植物の生息・育成環境の保全に配慮し、親水性の高い水辺空間の整備に努めます。

### 長期的かつ計画的な下水道の維持管理の推進

- 下水道施設の電子台帳化を進め、計画的な維持管理を推進します。
- 公共下水道区域外に居住の市民に対しては、引き続き、浄化槽市町村整備推進事業により、下水道環境の充実を促進します。

## 防災まちづくりの方針

### 防災力の高いまちづくりの推進

- 東城地域は、成羽川を挟み東西に市街地が形成されているため、災害時には避難が困難となることが想定されます。そのため、支所周辺の医療・福祉・教育など多様な都市機能とのネットワーク強化と地域に応じた防災拠点の充実により、一体的な防災力の向上を図ります。また、東城中央運動公園や東城中学校等が担う避難所機能も踏まえた総合防災力の強化を推進します。
- 河川洪水や土砂災害等の災害に備えた、複数の代替機能を持つ道路網の整備を推進するため、「ラダー型防災道路ネットワーク」の強化を推進します。



<東城消防署>

※「ラダー型防災道路ネットワーク」：道路をラダー（はしご）に見立て、縦軸と横軸を相互連携させ、あらゆる災害に備えた複数ルート・代替機能を持つ道路網

### 計画的な河川改修の促進

- 近年の気候変動による豪雨の頻発化・激甚化に対応するために、成羽川などの河川洪水または内水による浸水リスクが高い区域においては、洪水・内水被害を防ぐため、河川改修を計画的に進め、安全で快適な都市環境を確保します。



<近年の豪雨による成羽川の状況>

### 土砂災害防止対策に向けた取組の推進

- 土砂災害の恐れがある箇所については、土砂災害警戒区域等における崩壊防止工事等を推進し、災害リスクの低減を図ります。
- 土砂流失や洪水などの自然災害を防止する保水機能等を有する、森林や緑地・農地などの適切な保全に努めます。
- 関係機関と連携しながら、避難所や要配慮者利用施設について必要な法面对策や砂防施設整備などの対策を推進します。

### 自主防災体制の強化

- 「庄原市強靱化地域計画」や「庄原市地域防災計画」に基づき、総合的な防災体制及び危機管理体制の強化を図ることで、災害に強く、安全・安心に暮らせる都市づくりを推進します。
- 自主防災本部・自主防災会における具体的な活動と連携し、災害全般に対応した自主防災体制の強化を図ります。
- 地域防災力の強化のため、防災研修会・防災訓練を適宜実施します。
- 避難行動要支援者の避難支援体制の確立を支援します。

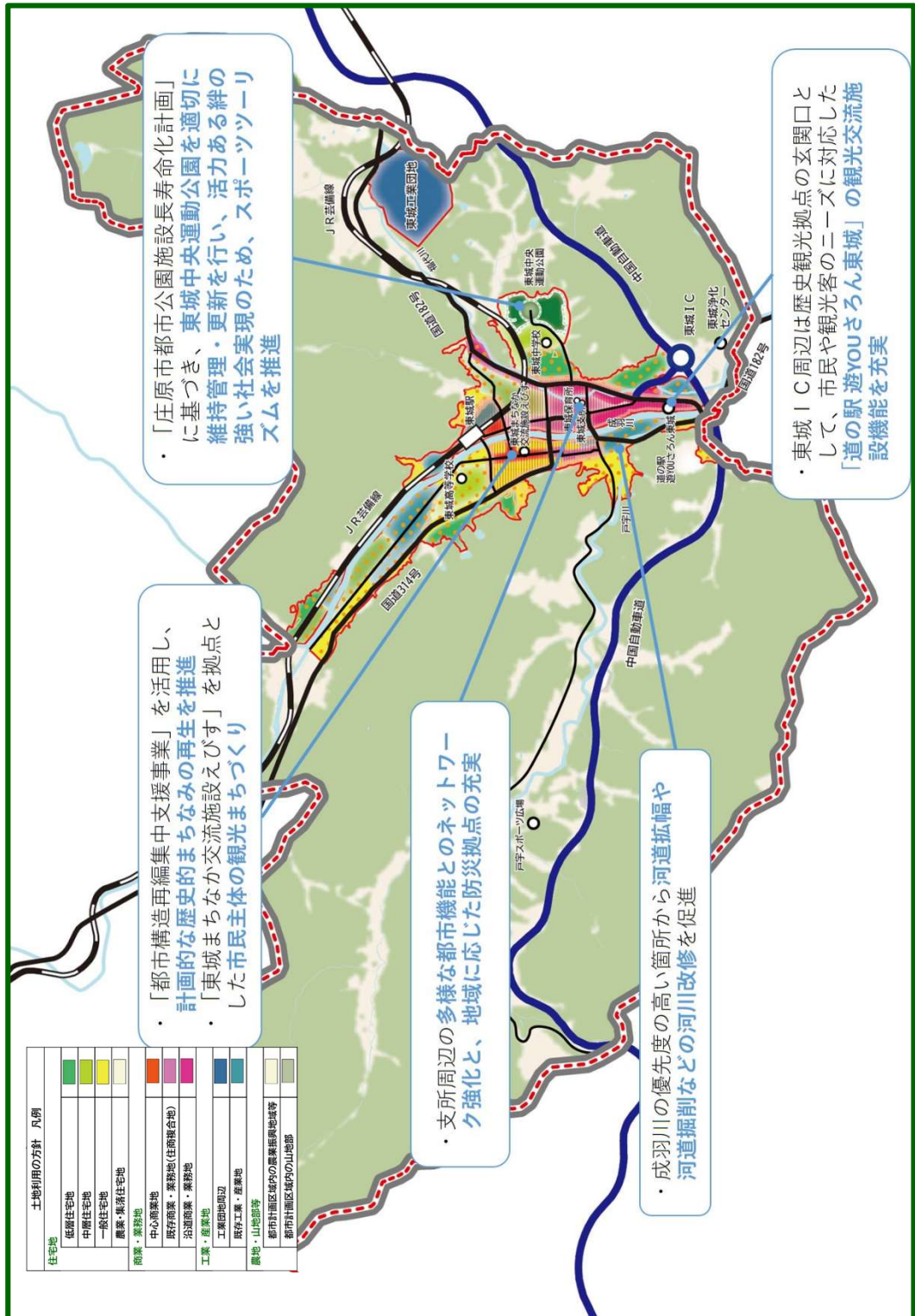
## アンケート調査での市民の声

### ■「水災害や土砂災害の対策施設等の整備」が重要！

市が実施したアンケート調査によると、市民が考える災害に強いまちづくりに向けて重要だと思う取組は、「水災害や土砂災害の対策施設等の整備」の回答数が最も多くなっています。



## 東城地域のまちづくり方針図



## 4-4. 地域別方針 西城都市計画区域（生活拠点）

### （1）地域の概況

西城地域は、まちの中心部を西城川が南北に流れており、岩肌が露頭した河床など独特の河川景観をつくり出しています。

中心市街地には、地域の医療・福祉を支える、西城市民病院や庄原市西城保健福祉総合センターしあわせ館や、過疎高齢化地域の生活環境を守る施設として、商業集積複合施設ウイル西城があり、医療・福祉・商業等の都市機能がコンパクトに集約した生活拠点となっています。

一方で、若年層を中心とした都市部への人口流出や少子化に伴い、商店街では店舗の閉店が相次ぐなど、徐々にまちが衰退しており、また、公共施設も経年劣化に伴い老朽化が進んでいます。

今後は、地域住民の健康・住みやすさを支える都市機能が集約された、質の高いコンパクトなまちづくりが求められます。

### （2）地域の現状

令和2年国勢調査での西城都市計画区域内の人口は、1,552人で、市域全体の人口（33,633人）の4.6%を占めています。

土地利用状況は、用途地域内の住宅用地が23.8%となっており、市街地北側には工業用地があります。

### （3）地域の基本的な方針

地域づくりの方向性	市民の健康的な暮らしを支え、コンパクトに都市機能が集積する中山間地域のモデル的な「生活拠点づくり」
施策の方針	●医療・福祉機能の充実・強化 ●中山間地域のモデル的な生活拠点の形成



<西城都市計画区域>

## (4) 施策の方針

### 土地利用・市街地整備の方針

#### 医療・福祉・商業が充実したコンパクトなまちづくり

- 「都市構造再編集中支援事業」を活用し、西城市民病院を核とした、医療・福祉等が一体となった、利便性の高い施設の形成を図ります。
- 西城支所周辺に点在する未利用地の活用に向けて、用途地域の目的をさらに強化、緩和することで、適正な計画的土地利用の増進を図ります。



<西城支所周辺>

#### 誰もが安全・安心・快適に住める定住環境づくり

- 計画的な生活基盤施設の整備により、誰もが快適に住める住環境の創出を図ります。
- 密集市街地は、快適性や防災性を高めた土地利用を誘導します。
- 「庄原市空き家対策計画」に基づき、空き家、空き店舗などの除却の推進や、利活用を図り、安全で安心して住める住環境に取り組みます。



<住環境の整備>

#### 自然環境との共生に配慮した土地利用の推進

- 市街地周辺部の農地は、地域の特産物の生産拠点としての土地利用を維持します。
- 市街地に近接する地域は、自然環境の保護に配慮したレクリエーション地として計画的に利活用を推進します。



<市街地周辺部の農地>

### 西城自治振興区での取組状況

#### ■ ウイル西城の今後の活用について

西城自治振興区は平成 23 年に西城まちづくり計画を策定しており、整備方針の設定に先立ち、現況・課題を踏まえ、西城まちづくり推進協議会のワーキングを計 3 回実施しました。その中で、ウイル西城に関する要望として、①道の駅等の機能を持たせる、②ウイル西城の建増しによる魅力の増大、③町内観光の帰着点としての活用等が意見としてまとめられました。



## 交通体系の方針

### 市街地内の骨格街路の整備検討

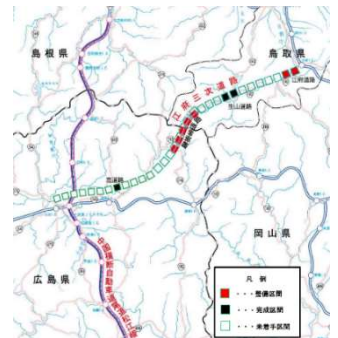
- 西城支所周辺の都市計画道路は、将来需要の検討と配置や規模などを検証し、必要に応じて計画変更を行い、効率的な施設整備を行います。
- 西城支所周辺と備後西城駅のアクセス向上を図ることで、備後西城駅の公共交通拠点としての機能強化に向けて取り組みます。



<備後西城駅>

### 広域交流連携軸となる「江府三次道路」の整備促進

- 高規格道路「江府三次道路」は、本市の多面的な交流・連携のための重要な道路網として、広域道路ネットワークの形成を推進します。



<江府三次道路>

### 地域の連携や交流を支える幹線道路の維持管理

- 周辺地域の連携や交流を支える地域交流連携軸である国道183号、地域交流連携補完軸である主要地方道西城比和線は、適切な維持管理や整備により良好な道路ネットワークの形成推進に努めます。
- 主要地方道東城西城線は、災害時の緊急輸送道路として、機能強化や多重型道路ネットワークの構築を図ります。
- アダプト制度を利用し、市民と協力した道路の維持を推進します。



<国道183号>

### 交通安全施設の適切な維持管理・整備の推進

- 市民・団体・事業者・行政の協働による、交通安全施設の適切な維持管理を推進します。
- ウォーカブルなまちづくりのため、商店街などの歩道の整備を国や県とともに推進します。



<地域の商店街>

## 景観・みどりと水の方針

### 水辺と豊かな自然を生かしたふれあい環境づくり

- 西城川の特徴的な河川景観を生かした、ふれあいと安らぎの環境づくりを目指し、動植物の生息・生育環境の保全に配慮し、親しみのある水辺空間づくりに努めます。



<西城川>

### 市街地を取り囲む里山環境の維持と活用

- 市街地に近接する丘陵地の自然景観は、自然を生かした身近な憩いの場としての活用を推進し、自然景観を保全します。
- 市民と協力し、西城市街地公園（ゆめ公園）の適切な保全と形成を図ります。
- 西城町内に点在する、ひろしま県民の森、熊野神社、道後山高原クロカンパーク等の観光資源との交通ネットワークを充実し、観光交流による関係人口の増加を図ります。



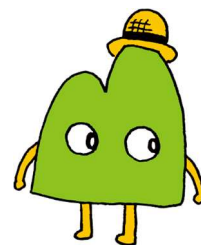
<ゆめ公園>

### アンケート調査での市民の声

● .....

#### ■ 「自然・公園を活かすまち」が重要！

市が実施したアンケート調査によると、市民が考える西城地域の目指すべきまちの姿のうち、「自然・公園を活かすまち」の回答数が最も多くなっています。



## 河川・下水道の方針

### 河川整備による、防災・景観に配慮した取組の推進

- 西城川などの河川について、再度災害防止対策に取り組むとともに、優先度の高い箇所から、河道拡幅や河道掘削などの河川改修を計画的に進めます。また、動植物の生息・育成環境の保全に配慮し、親水性の高い水辺空間の整備に努めます。

### 生活の質的向上を目指した生活排水環境の整備推進

- 生活の質的向上を図り、持続可能な生活環境の構築に向けて、農業集落排水区域外に居住する市民には、引き続き、「浄化槽市町村整備推進事業」により、下水道環境の充実を促進します。

## 防災まちづくりの方針

### 西城市民病院への広域的なアクセス確保

- 2次救急医療施設である西城市民病院への災害時における安全なアクセス確保を図るため、河川洪水や土砂災害等の災害に備えた、複数の代替機能を持つ道路網の整備を推進することで、「ラダー型防災道路ネットワーク」の構築を目指します。



<西城市民病院>

### 計画的な河川改修の促進

- 近年の気候変動による豪雨の頻発化・激甚化に対応するために、西城川などの河川洪水または内水による浸水リスクが高い区域においては、洪水・内水被害を防ぐため、河川改修を計画的に進め、安全で快適な都市環境を確保します。



<西城川>

### 土砂災害防止対策に向けた取組の推進

- 土砂災害の恐れがある箇所については、土砂災害警戒区域等における崩壊防止工事等を推進し、災害リスクの低減を図ります。
- 土砂流失や洪水などの自然災害を防止する保水機能等を有する、森林や緑地・農地などの適切な保全に努めます。
- 関係機関と連携しながら、避難所や要配慮者利用施設について必要な法面对策や砂防施設整備などの対策を推進します。

### 自主防災体制の強化

- 「庄原市強靱化地域計画」や「庄原市地域防災計画」に基づき、総合的な防災体制及び危機管理体制の強化を図ることで、災害に強く、安全・安心に暮らせる都市づくりを推進します。
- 自主防災本部・自主防災会における具体的な活動と連携し、災害全般に対応した自主防災体制の強化を図ります。
- 地域防災力の強化のため、防災研修会・防災訓練を適宜実施します。
- 避難行動要支援者の避難支援体制の確立を支援します。



## アンケート調査での市民の声

### ■「水災害や土砂災害の対策施設等の整備」が重要！

市が実施したアンケート調査によると、市民が考える災害に強いまちづくりに向けて重要だと思う取組は、「水災害や土砂災害の対策施設等の整備」の回答数が最も多くなっています。



## 西城地域のまちづくり方針図

土地利用の方針 凡例	
<b>住宅地</b>	
低層住宅地	■
中層住宅地	■
一般住宅地	■
農業・集落住宅地	■
<b>商業・業務地</b>	
中心商業地	■
既存商業・業務地(住商複合地)	■
沿道商業・業務地	■
<b>工業・産業地</b>	
工業団地周辺	■
既存工業・産業地	■
<b>農地・山地部等</b>	
都市計画区域内の農業振興地域等	■
都市計画区域内の山地部	■

